平成 18 年 10 月 27 日

各　　位

会 社 名　神鋼電機株式会社
代表者名　取締役社長　佐伯弘文
（コード番号　６５０７　東証第１部）
問合せ先　総務人事部　法務･広報グループ長
小島　茂
（TEL.　０３－５４７３－１８００）

業績予想の修正に関するお知らせ

平成１９年３月期（平成１８年４月１日 ～ 平成１９年３月３１日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

１．１９年３月期中間連結業績予想数値の修正（平成１８年４月１日　～　平成１８年９月３０日）

（単位：百万円）

	売　上　高	経常利益	当期純利益
前　回　発　表　予　想（A） （平成１８年８月２２日発表）	３５，３００	２５０	２，７００
今　回　修　正　予　想（B）	３４，５７６	７１５	２，９１３
増　　減　　額（B－A）	△７２４	４６５	２１３
増　　減　　率（%）	△２．１	１８６．０	７．９
（ご参考） 前期実績（平成１７年９月期）	３４，００１	９８４	６２４

２．１９年３月期連結業績予想数値の修正（平成１８年４月１日　～　平成１９年３月３１日）

（単位：百万円）

	売　上　高	経常利益	当期純利益
前　回　発　表　予　想（A） （平成１８年６月２２日発表）	８３，８００	３，６００	５，２００
今　回　修　正　予　想（B）	８２，８００	３，６００	５，２００
増　　減　　額（B－A）	△１，０００	－	－
増　　減　　率（%）	△１．２	－	－
（ご参考） 前期実績（平成１８年３月期）	７９，２０６	４，５９２	３，０５６

３．１９年３月期中間業績予想数値の修正（平成１８年４月１日　～　平成１８年９月３０日）

（単位：百万円）

	売　上　高	経常利益	当期純利益
前　回　発　表　予　想（A） （平成１８年８月２２日発表）	２８，５００	６００	４，６５０
今　回　修　正　予　想（B）	２８，０９８	１，０７９	４，８６１
増　　減　　額（B－A）	△４０２	４７９	２１１
増　　減　　率（%）	△１．４	７９．８	４．５
（ご参考） 前期実績（平成１７年９月期）	２７，４１１	５５４	２９７

４．１９年３月期通期業績予想数値の修正（平成１８年４月１日　～　平成１９年３月３１日）

（単位：百万円）

	売　上　高	経常利益	当期純利益
前　回　発　表　予　想（A） （平成１８年6月２２日発表）	６８，７００	３，３００	６，２００
今　回　修　正　予　想（B）	６７，１００	３，６００	６，２００
増　　減　　額（B－A）	△１，６００	３００	－
増　　減　　率（%）	△２．３	９．１	－
（ご参考） 前期実績（平成１８年３月期）	６５，３６７	３，１８９	１，８０８

５．修正の理由

1)【連結】中間期
売上高は、プリンター・大型搬送システム・産業電機・子会社工事関係等の減少により、前回予想より 724 百万円減少しています。
経常利益につきましては、振動機ﾊﾟｰﾂﾌｨｰﾀﾞ・大型搬送システム・社会システムの採算向上、及び、費用減少等により、対前回 465 百万円の増益となる見込です。
当期純利益につきましては、経常利益の増加、特別損失（棚卸資産評価損）の増加、及び税負担の減少により、対前回 213 百万円の増益となる見込です。

2)【連結】通期
売上高は、プリンター・試験装置等が減少し、半導体液晶機器・大型搬送システム・子会社流通関係等が増加するものの、前回予想より 1,000 百万円減少する見込です。
経常利益につきましては、売上減少に伴う減益を補う、半導体液晶機器や大型搬送システムの売上増加による採算向上、振動機ﾊﾟｰﾂﾌｨｰﾀﾞの採算向上、及び、費用減少等による増益があるものの、子会社サービス関係の減益があり、前回発表通りの 3,600 百万円となる見込です。
当期純利益につきましても、特別損失の増加があるものの、特別利益（子会社工場売却益）の増加もあり、前回発表通りの 5,200 百万円となる見込です。

3)【単独】中間期
売上高は、プリンター・大型搬送システム・産業電機等の減少により、前回予想より 402 百万円減少しています。
経常利益につきましては、振動機ﾊﾟｰﾂﾌｨｰﾀﾞ・大型搬送システム・社会システムの採算向上、及び、費用減少等により、対前回 479 百万円の増益となる見込です。
当期純利益につきましては、経常利益の増加、特別損失の増加、及び税負担の減少により、対前回 211 百万円の増益となる見込です。

4)【単独】通期
売上高は、プリンター及び試験装置等が減少し、半導体液晶機器や大型搬送システム等が増加するものの、前回予想より 1,600 百万円減少する見込です。
経常利益につきましては、半導体液晶機器や大型搬送システムの売上増加と採算向上、振動機ﾊﾟｰﾂﾌｨｰﾀﾞの採算向上、及び、費用減少等により、売上減に伴う減益を補い、対前回発表 300 百万円の増益となる見込です。
当期純利益につきましては、経常利益の増加はあるものの、特別損失の増加、及び税負担の減少により、前回発表通りの 6,200 百万円となる見込です。

以　上